

スカウトちば

SCOUT CHIBA

「スカウトちば」は、日本ボーイスカウト千葉県連盟の広報誌です。

Vol.94

2019年10月10日発行

CONTENTS

世界スカウトジャンボリー参加報告

富士特別野営2019参加報告

スカウト表彰報告

隊活動報告

先輩スカウト登場

隊紹介



YEARS OF SCOUTING
IN JAPAN

1922 - 2022

第24回世界スカウトジャンボリー 参加報告



第24回世界スカウトジャンボリー (24WSJ)

4年毎に開催される世界スカウトジャンボリーの第24回大会は、カナダ・メキシコ・アメリカの3カ国連盟共催により、2019年にアメリカ合衆国ウェストバージニア州サミット・ベクテル保護区で開催されました。日本からは大会スタッフを含め1200人が派遣されました。代表スカウトは、世界スカウト機構 (WOSM) に正式加盟している170の国と地域を代表するスカウトと野営生活を共にしながら親善交歓をはかり、様々なプログラムへの参加を通じて世界友情を築き、多くの国の参加者との交流を通して国際理解を深めると共に日本への関心と理解の高揚に努めました。千葉県連盟からは72人のスカウトと指導者が参加いたしました。

なお、18歳を超えるベンチャースカウトとローバースカウトは、国際サービスチーム員 (IST) として、海外からのチーム員と共に大会運営に貢献しました。

テーマ: 「新世界の扉を開こう」"Unlock a New World"
派遣期間: 2019年7月21日(日)～8月5日(月) 16日間(参加隊)
派遣先: アメリカ合衆国ウェストバージニア州
サミット・ベクテル保護区

市川・浦安地区 市川第1団

ベンチャー隊

安田 航

24WSJで感じた事

僕は今回の第24回世界スカウトジャンボリーに参加して1番経験になったのは、人との関わりでした。

僕達6隊は良くも悪くも面白い仲間が集まっていて、その中で班長と上級班長の掛け持ちをしていました。直前まで一癖も二癖もある人達を上手くまとめられるか不安でしかありませんでした。このジャンボリーを大成功と呼べるものにする為にはどうすればいいか話し合ったり、相談して助言を貰ったりして、やり方を考えていました。それでも1つ大事にしていたのは仲良く楽しく終わるという事でした。

今、ジャンボリーが終わり振り返ってみると大きなトラブルもなく初対面の人が多い中、隊全員でプログラムにもイベントにも参加できていたのでとても良かったです。この経験や楽しかった思い出は後輩に伝えていきたいです。



船橋地区 船橋第3団

ベンチャー隊

竹内 佳奈

24WSJでの思い出

行く前は長いと感じていた2週間があっという間に過ぎてしまった。毎日が本当に楽しく、とても充実していた。

特に外国スカウトの交流会やワッペン交換が楽しかった。欲しいワッペンを見つけて交渉したり、写真を撮ったり、国や宗教の違う多くの人との交流は世界ジャンボリーならではの事だと思うので、参加して本当に良かった。カナダとの交流ではお互いの生活や学校について話す事ができ、相互の理解を深める事ができた。

また、異文化交流では浴衣を着せてあげた。興味を持ってくれる人が多く、日本の古き良き文化というのは、世界でも人気が高いと感じた。そして、日本人である私達はこの文化を廃れさせる事なく、後世へ世界へと繋げていかなければならないと感じた。アクティビティも日本とはスケールが違い、特にラフティングが楽しかった。ただ、やり残した事も多くある。もっと海外スカウトと多くの話をするべきだった。仲良くなった人もいるので、今後その人達と連絡を取り合いたい。

この世界ジャンボリーを糧に、今後様々な事に挑戦したい。

また、今回もっと英語を話せたらと何度も思ったので、これからもっと英語の勉強をしたい。

最後に多くの交流や、スケールの大きいアクティビティなど貴重な経験をできる場に送り出し、お金を払ってくれた親への感謝を忘れる事なく、いつか恩返しができるようにしたい。



世界中の仲間

私のこの夏の成果としてあげられることは、数多くのスカウトとコミュニケーションを交わしたことです。期間中に行われたカルチャーデーでは、様々な国のサイトへ行き、初めて口にする料理をたくさん食べました。そして、出会ったスカウトには事前に用意してきたアンケートに答えてもらいました。このアンケートから共通

してわかったことは、どの国のスカウトも新たな経験と新たな友情を求め参加し、スカウティングが好きであることです。世界中に広がるスカウト運動。これを実感できたことは私のこれからのスカウト人生において計り知れないほどの価値があったと感じています。あの場で同じ時を過ごした4万5千人の仲間たちも同じ地球のどこかでこの夏の思い出を振り返っていると思うと暖かな気持ちでいっぱいになります。“The earth is round and it makes people to meet again” 私が出会った台湾スカウトのこの言葉は一生忘れないと思います。



日本人の印象

私は国際サービスチーム員(IST)として、trading post で POS assistantとして約三週間働きました。私は店の中で5つの仕事に割り振られ、スカウトやお客様がスムーズに買い物が出来るように仕事をしました。職場での日本人は休まず働き自分から仕事を見つけ動くのが当たり前だと認識していた為、上司や同僚からは働きすぎだと心配されたり、無断欠勤をしている同僚に腹が立ったりと国ごとの性格や習慣の違いに終始戸惑っていました。しかしこのような仕事を毎日していたお陰で職場のおじいちゃん達からとても可愛がられ自然に私の事を助けてくれる人が増えました。これは私が「英語が話せなくても笑顔でいる」ということを意識するようにしていたからだと思います。今回、ISTとして参加して言葉よりも行動の大切さを実感しました。そして自分自身成長することができたこと、経験と思い出ができたことは大会に参加して良かったと心から思います。

国際サービスチーム員(IST)の業務を通して得たこと

私は、見学者・派遣隊員などからの質問に対して返答する INFORMATION (案内所) を担当しました。そこでは複数の言語で質問されたり、イベント名が簡略化されていたりと1人では内容を理解できないこともありました。しかし、他国のISTと一致団結し乗り越え、同じ目的に向かって活動していることを実感しました。業務の仲間、4年前に山口で開催された第23回世界スカウトジャンボリー(23WSJ)や日韓スカウト交歓計画で知り合ったスカウト達と共に高カロリーな料理を食べて、賑やかなイベントに参加したりと生活はお祭りのようでした。ISTとして参加するきっかけを下さった23WSJ関係者、また指導者の方々に深く感謝致します。4年後韓国で開催される世界スカウトジャンボリーにも参加できるように、多様な言語、文化、習慣に触れた経験を活かしてスカウティングに励んでいきます。



富士特別野営2019 参加報告



富士スカウト章および隼スカウト章を取得したベンチャースカウトを対象とした名誉ある野営大会として開催されました。参加スカウトは、北は宮城から、南は長崎まで37人が集まり、6班を編成されました。1泊の移動野営を含む1週間の長期野営と冒険的なプログラムに挑戦することを通じて、仲間との絆を深めつつ、高度な技能を発揮しました。参加スカウトたちは、夏の強い日差しに加えて、時折降る大雨にも悩まされつつ、自然の偉大さを実感しながらプログラムに取り組みました。特に、2日目から1泊2日をかけて実施した、那須野営場から高萩スカウトフィールドまでの移動野営においては、途中の川下りを含めて、約100km以上の距離を、全装備を背負って移動するというハードな内容となりました。千葉県連盟からは、伊藤芳治君(流山3団VS)と高橋あすかさん(佐倉4団VS)、スタッフ(上級班長)として片寄颯人君(八千代2団RS)の3人が参加しました。



写真提供: ボーイスカウト日本連盟

北総地区 流山第3団

ベンチャー隊

伊藤 芳治

最高の6泊7日間

～富士特別野営2019に参加して～

2019年8月10日から16日にかけて行われた、富士特別野営2019に参加させて頂きました。自分の持つスカウトスキルを最大限に活用して乗り越えていく野営生活は厳しく困難なものでしたが、全国から集いし精鋭37人と過ごす楽しさも、そこに感じる事ができました。移動野営中の読図、体調管理、キャンプサイトの設計や野外での炊事など、一人だけでは困難なことも、班員同士の支え合いによりそれらを乗り越えていきました。また、期間中は班長を務めさせて頂き、班をまとめることの大変さ、前に立って指示することの難しさを改めて実感し、これらを課題として今後更に成長していかなければと考えました。この富士特別野営2019で得た、仲間と協力することの大切さ、班をまとめていくことの難しさ、野営生活での楽しみ方、ということを今後のスカウト活動に大いに役立てていきたいと思えます。最後になりましたが、隊指導者、大会スタッフを始めとする多くの方々大変お世話になりました。

ありがとうございました。



オフィシャルアフタームービーはこちら

<https://www.youtube.com/watch?v=ePCKdhhO0ol>



隊活動報告

千葉地区 千葉第21団

ベンチャー隊

小児がんの子ども達のために

味村 勇太

昨年の夏にプロジェクトとして実施した、レモネードスタンドについて紹介したいと思います。レモネードスタンドとは、レモネードを作って販売し、お小遣いを稼ぐためにアメリカの子ども達が始めた活動のことで、私は、その売り上げを小児がんの啓発研究のための支援団体に寄付する活動に参加しました。この活動はキャンサーネットジャパンが運営事務局となり、ポッカサッポロフード&ビバレッジが企業パートナーとなっています。なぜこの活動をやると思ったかという、私は平成2017年3月に白血病と診断され、その後1年間入院していたからです。入院中に、この活動の事を知り、「退院して元気になったら、自分もやってみよう」と考えていました。昨年の4月に退院してから準備を始め、8月に団が毎年出店させてもらっている「土気サマーフェスティル」で販売いたしました。中学時代の同級生や千葉18団および

21団のベンチャースカウトの協力を得て、2日間で計256杯販売することができ、その収益金は支援団体に全額寄付をいたしました。皆さんも簡単にできるので是非やってみてください！(味村君は第24回世界スカウトジャンボリーに日本代表として参加し、海外のスカウト達の交流をとoshした貴重な体験をして元気に帰国しました)



スカウト表彰報告

今年度は、人命救助などによる善行章、長きに亘る公共奉仕に対するスカウトの表彰がありました。善行章は、スカウト精神に基づき善行を行い、スカウトの模範となる者に対して表彰されました。公共奉仕授は、スカウト精神に基づき公共奉仕を行った隊、班または組に対して授与されます。

善行章 伊東 幸多郎(我孫子1VS)
堀田 拓渉(我孫子1RS)
岡田 大輔(我孫子1RS)
相沢 樹範(我孫子1RS)
長平 天地(浦安2RS)

公共奉仕授 千葉第18団 ビーバー隊
千葉第18団 カブ隊
千葉第18団 ボーイ隊
千葉第18団 ベンチャー隊

東葛地区 我孫子第1団

夏季キャンプでの出来事

2018年8月、日本ジャンボリーから我孫子へ戻った私は、福島に向けベンチャー隊の移動キャンプのサポートへ向かった。2日目の登山では、道中熊に遭遇し、干上がった川にはその大きな足跡が見られた。大自然を感じながら頂上への道を行くと、山小屋へ差し掛かるところで雨が降り始めた。頂上へのアタックを始めようとするすぐに雷が轟き、ベンチャー隊は山小屋まで退いた。山小屋で今後について話していると、そこへ「お医者さんはいませんか?」と尋ねる方が飛び込んだ。その場に居合わせた看護師の方が出て行くと、「力の強い方、男性の方はいらっしゃいますか?」と息を切らしてすぐに戻ってきました。ただ事ではないと察した私達は、隊長含め5人で現場へと向かった。そこでは、体格の良い男性が道を塞ぐように倒れており、既に心臓マッサージを受けていた。我々を含めた男性のグループで山道に列を作り、順番に心臓マッサージを施した。途中、休暇中の消防で働く方が、心臓マッサージ

ローパー隊

相澤 樹範

のアドバイスをして下さった。しかし、段々と日が暮れると下山せざるを得ない方もいた。我々は山小屋の方々と残り、心臓マッサージをしながら救急隊の到着を待った。その間も雷は止めども雨は降りしきり、カッパを着ての心臓マッサージは非常に暑かったことを今でも覚えている。救急隊が到着した後も、担架での下山を手伝った。時の経った今思い出しても、鮮明に蘇ってくる強烈な体験であり、「そなえよつねに」のモットーの意味を改めて考えるキッカケになった。



千葉地区 千葉第18団

奉仕という学びの場

～稲毛の浜 海浜清掃～

千葉第18団は、団行事の奉仕活動として、毎年稲毛の浜にて海浜清掃を行っています。この清掃奉仕活動では、海岸をきれいにするのはもちろんのこと、海上保安庁のご協力により、拾ったゴミをチェックシートに記録するという活動をしています。私は、その際に毎年ビニールゴミが多いという点に気づき、近年騒がれている海洋プラスチックゴミ(マイクロプラスチック)の問題を実体験として感じ、海上環境について考えるきっかけとなりました。

ベンチャー隊

木谷 実里

また、千葉海上保安部の海上保安官にも来て頂き、一緒に海浜清掃活動を行うとともに、ビーバースカウトにも理解できる海洋環境・綺麗な海を守るということについてのお話等もして頂いています。そして、この海浜清掃奉仕活動が認められ、千葉海上保安部長表彰、第三管区海上保安本部長表彰、海上保安庁長官表彰と、五年毎に海上保安庁より表彰を頂いています。日本連盟からもその功績が認められ、公共奉仕授を頂くことができました。

2020年、稲毛の浜はリニューアルオープンし白浜海岸になります。そして、様々な施設のオープンも予定されています。稲毛の浜が活躍してゆくのに伴って私たちもスカウトとして、より一層清掃奉仕活動に力を注いでいきたいと思えます。



先輩スカウト登場

南総地区 袖ヶ浦第1団

平成25年度
富士章受章スカウト

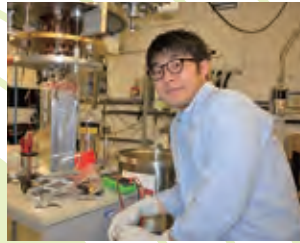
山田 智宏

自分の頭で考えて 行動するということ

私は現在、東京大学宇宙線研究所の博士課程の学生として、大型低温重力波望遠鏡KAGRAに関する研究開発をしています。KAGRAはレーザー干渉計型と呼ばれる重力波検出器で、遠い宇宙から到来する『重力波』を捉え、ブラックホールや宇宙の成り立ちを解明しようとしています。重力波は時空を伝わる波で、そのシグナルは非常に小さく、KAGRAでは世界に先駆けた独自の技術として極低温鏡を導入し感度向上を目指しています。私が主に関わっているこの極低温技術は、レーザー光を反射する鏡を-253℃まで冷却することで熱による雑音を抑えようとするものです。様々な制約の中でいかに効率的に鏡を冷却し、極低温鏡を用いたレーザー干渉計を構築するかが世界でも前例がなく研究者の意欲を

掻き立てます。

このような未だ誰もやっていない部分を突き進んでいくときに役に立っているのは、小さい頃からボーイスカウトで培ってきた自分で道を切り拓く力です。スカウト活動の中で一貫して取り組んできた『自分の頭で考えて行動する』ことが、場面を変えて今でも役に立っており、そのことが研究者としての下地となっていると改めて感じています。



研究で訪れたローマ・ラ・サピエンツァ大学での実験での一コマ。約2ヶ月滞在した。

KAGRA坑内のクリープス内での装置組み立て作業中の一コマ。右が私、左はイタリア人共同研究者



隊紹介

印旛地区 富里第1団

ビーバー隊
隊長

吉田 卓次

より多くの仲間と 活動するために!

私は、一人ひとりのスカウトと向き合うように常に心がけています。同時にそれぞれの保護者の方とも接しています。スカウトだけでなく、保護者の方も一緒に楽しんでもらうことが大事だと考えるからです。また、ビーバー隊の活動の魅力と価値を保護者の方に認めてもらうことも大切だと考えます。

ビーバー隊では、今年度3人の入隊者を迎え、6人となりました。少人数の団ですが、これまで

- ①年少者でも見学を勧める。(対象年齢で入隊)
- ②元指導者や保護者から口コミで紹介して頂く。
- ③団で体験会を実施する。
- ④隊活動を公開プログラムとして、団ホームページでお知らせし、参加希望者を受け入れる。

等を地道に行ってきたことが、スカウトの増加につながったと考えています。

現在6人のビーバースカウトは、毎月の集会を保護者の方も含め、わくわくドキドキ、楽しみながら活動しています。これからもスカウト一人ひとりの個性を大切に活動をして、ボーイスカウト活動の活性化につなげていきたいと思えます。



広報関連スタッフ募集中

運動拡充委員会では、「スカウトちば」やホームページなどの広報を充実させるため下記のスタッフを募集しています。下記のスキルに該当する方々で、自薦、他薦を問いません。

応募条件

ローバースカウト、成人指導者で以下に該当する方

- ①写真、映像撮影、編集が出来る方
- ②イラストレーター、記事編集が出来る方
- ③ネット発信・拡散などが出来る方
- ④Webのデザインなどが出来る方

詳しくは下記を参照下さい。

http://www.scout-chiba.jp/member/movement_expansion/3774/



【発行者】

日本ボーイスカウト千葉県連盟

〒260-0001 千葉市中央区都町2-1-12 千葉県都町合同庁舎4階

TEL.043-235-8070

運動拡充委員会 編集責任 山本 勲

詳細は、日本ボーイスカウト千葉県連盟ホームページをご覧ください <http://www.scout-chiba.jp>



県連盟公式フェイスブックファンページ開設

県連盟では、県連盟。地区や団の活動報告を行うためにフェイスブックのファンページを開設しました。団や隊で発信したい場合は、ファンページのメッセージからお知らせ下さい。

<https://www.facebook.com/scoutchiba/>



お問合せは